

同志会新聞

発行者
都城園芸花市場
生産者同志会

第13号

編集者
原田 修作

生産者・買受人 大交流大会 盛會に終わる

企画

六月二十四日 金曜日に生産者・買受人当市場に係わりのある方々に、「たまには語るかい・たまにはイッドキ飲もかい」を合言葉に、百四十名の皆さんにお集まりいただき、焼肉台を中心にご自由に飲んで、食べていただきました。

そもそも、今回の企画は、昨年 同志会大会を六月予定をしておりました。ところが口蹄疫の発生により、集会の自粛を余儀なくされました。

また、あの3・11東日本大震災！！花の販売環境もなかなか立ち直る事が出来ず、多くの皆様方にご迷惑をお掛けしたところでした。みんな、集まって、話したり、飲んだりしたら、お互いの元気を分け合おうが、この企画

の始まりであります。

参加者

当日は四時乾杯とあつて、三時半過ぎには多くの皆さんがお集まりくださいました。

準備作業が遅れ、皆さんにはご迷惑をお掛けしましたが、十五分遅れぐらいで始めることができました。

生産者の方で遠くは、大分県からアルストロメリアの生産者の方・熊本県から苗物、草花の生産者の方々に参加いただきました。

また、鹿児島県の枕崎からも参加いただき、同じ作物を作っておられる方同士で、大いに盛り上がっていただくことができ、嬉しく思います。また、当社の会長も久しぶりに参加して、元気をアピール。昔からの知り合いの生産者の皆さん方と話に盛り上がって

ました。

買受人の方々も市内の方を中心に参加をいただきましたが、遠くは鹿児島薩摩半島の花屋さんにも参加いただきました。元気をいただきました。

話

生産者との会話の中で、皆さんの悩みが今回の震災以降の価格低迷のことでありました。「現状の状況は理解できるが、今後どこまでこの状態が続くのか不安がある。」皆さん同じ悩みを抱えておられることがよくわかりました。

お礼

賞金総額10万円のジャンケン大会、最高1万円から500円まで、ジャンケンには買ったが500円という方の落胆ぶりが印象的

不安

でありました。当初六時半をお開きの時間と考えておりましたが、話が盛り上がり予定時間を二時間オーバーの盛況でありました。

当日、準備・進行に追われ、会場の様子等を写真撮影も忘れてしまい、長々と文書での状況報告だけで、大変申し訳ありません。

参加いただいたみなさん、ありがとうございました。今回参加されなかった皆さん次回はぜひ参加してください。お待ちしております。

先の交流会の中で皆さんが声をそろえて言われることに、今後「震災の影響で関東方面の花の消費がどのようになるのだろうか？」

「その影響が南九州でも起きるのだろうか？」と云うことでありました。「秋からの、球根の発注時期でもあり、非常に悩んでいます。」

「このまま、花を作り続けて行って良いものだろうか？」

このような声を多く耳にしました。三月以降の相場を経験すると当然出てくる声であろうと思えますが！

心配無用

心配無用！！と云う状況に世の中の流れは向いているようです。

東北方面の花物流は、生活の安定化が進むにつれて、吊い花の需要が増え始めており、六月期での花の取引量は完全に回復してきたとの情報が入ってきました。

今後、経済活動が順調に回復、進むものと仮定した場合、花の消費の急激な減少とはならないと考えるのが正解であろうと思いま

す。むしろ、今年の盆需要は例年にならない引き合いになる可能性が出てきたのではないのでしょうか。

頑張ろう

3・11金曜日でしたが、インターネットを何気なく開いたら東北地方で巨大地震発生と流れていました。すぐ、テレビをつけると、津波が次々と押し寄せている様子がライブ映像で映し出されていきました。

月曜日から、本格的な彼岸商戦に入る直前で、ショック状態でありました。自然の怖さを思い知れされると同時に、テレビ等の報道が事態の深刻さと、国民の過剰な反応をとおろし、結果 消費意欲の減退を招く

ことがおき、彼岸といえども花の販売は厳しい状況となってしまう。と云うのが今回の相場の低迷の最大の原因であろうと思えます。

時の経過とともに、過剰な買い控え等がなくなるにつれ花の相場も、平常に戻ってきております。

みんなで、知恵を出し合い『頑張ろう』

ぶらーり 洋子

皆さんお元気ですか。

支援

東日本大震災から四か月をすぎ、今なお続く余震と、なかなか思うように進まない復興！

だがも大震災が再来する可能性の中、復興もただ単にもとに戻せば良いと云うものでもない！

復興には、時間とお金、そして震災前の自分達に戻れない苦悩と難しい現実がある。

私達も、市場のカウンターで義援金をつのり、寄付をさせてもらったが、義援金の行方にも疑問がある。

今も何かしたい！と云う気持ちはあるものの、同じ形での義援金は、自分自身もそうだが、他の方々にも度々はお願ひできない。

又、ある知人の依頼を受けて、宮城に物資を送ったが、私達が届ける物資と被災者側が望む物には、目ごとな変化が出てきたことも事実だ。

それに対応し続けてこそ支援なのだが、一方で疲弊

した現実があるのも事実だろう。

大切な事は、決して無理をせず、できる事から、少しずつでも継続することが大事だろうと思う。

今、ペンを走らせながら改めて、支援の輪に参加しようと思う。



緑のカーテン

この夏のブーム“緑のカーテン”

節電対策のひとつであり、被災地の気持ちも、分かち合うことになるのだ。この緑のカーテンで多くの消費者が、ガーデンニングへの入門をされたのでは

ないだろうか？

エコでゴーヤ、フーセンカズラ等を植えて、その良さと緑の“いやし”を知ってもらおう機会を与えられた、私達花業界。

やがて、実がなり、収穫する喜びをも知ってもらい、花や植物を生活の中に取り入れてほしい！

それにしてもこの夏、いや近年の異常気象に体が悲鳴をあげている。

気候の変動に伴い、花の国内生産が不安定さを増し、災害の風評も重なり、花が生活の中から消えつつあるが、お祝いや、お葬式以外でも、もっと生活の中に花を取り入れてもらいたいものだ。緑のカーテンが一過性のブームで終わらないことを祈る。

プロジェクト

その様な中、都城園芸花市場では、六月に大交流会を開催した。

又、消費拡大をテーマに、買受人、生産者との連携のもと、視察研修ミニツアーや花育成果プロジェクトを計画。

花育成果プロジェクトとは、買受人組合の方々が、各学校で実施している花育活動の成果を披露してもらう場を、提供しようとする

ものである。

十一月の“市場まつり”花会場にて、アレンジメントを作って戴く、小中高校生を対象に今募集している。

入賞は“市場まつり”に来場の皆さんの投票で決まるもので、作品の良し悪しが問題ではなく、参加して花にふれ、花に興味を持ってもらう事が目的である。

生産者の皆さんの、お子様のエントリーをお待ちしています。

ミニツアー

視察研修ミニツアーとは、毎月一回、買受人を六名程を産地に案内するもので、六月・七月とすでに二回実施した。

参加された方からはかなり好評で「コチョーランの徹底した温度管理や除湿など販売店でも参考になった」「置く場所によって、日持ちが違う等、お買い上げ頂いたお客様へのアドバイスも教わり勉強になった。」

又、産地との昼食の席では、「この暑さの中の仕事をされるのは大変ですネ、頑張つて値をつけます」などの声も上げるほど！帰りには、おみやげ(？話)をもらったりと、楽しい日帰りツアーになっている。

八月はお盆商戦のためお休みするが、九月は曾於・鹿屋方面を計画しています。

この企画は、買受人に生産者の顔を紹介することで、商品の品質向上や価格の安定につなげ、共に元気に頑張ってもらえたらと願うものです。

暑い夏、お体を大切にお励みください。

終わり



編集後記

またまた、新聞の発行のさばり、深く反省しております。

前回の発行が昨年二月で各方面からお叱りをいただきました。本当に申し訳ありません。

その間、口蹄疫の発生、鳥インフルエンザの発生、新燃岳の噴火、そして東日本大震災。

あまりにも衝撃的な事柄の連続でありました。

特に、大震災による福島原発の事故、原子力発電はその内容をあまりにも知らなかった自分に怖さを感じました。

私の知ってる原子力は、鉄腕アトムが小型の原子力で動く、それぐらい安全なものだと信じていましたから、自分の無知を恥じ入るばかりです。

動くものを安全に停止できない物、そのようなものが原子力であったとは、今回初めて知り、ショックであります。

さて、いよいよ八月に入ります。昨年も八月盆は、品薄高の取引でありましたが、本年も同様の動きとなるのではないのでしょうか？

今年の、盆に向けての産地状況は、梅雨入りまでの少雨による生育の遅れ、草丈不足等の品質低下の報告は来ております。

また、球根類を中心に東北北海道は雪解けが遅く、作付作業等の遅れが出ておりますが、盆には出荷量もまとまるようです。

今年、台風も当たり年のようです。くれぐれも万全の態勢で作業に取り組んでください。